

研究

津久見湾南岸の地域調査 (四)

―主として四浦地区―

矢野 彌生

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

- (一) 第一次産業
- (二) 第二次産業
- (三) 第三次産業

四 集 落

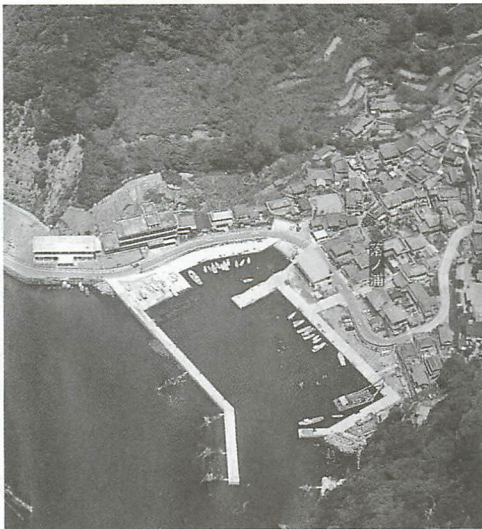
(一) 集落の構成

四浦地区の集落の構成をみると、集落は十四地区に分けられ、それぞれの地区には区長が行政補助の責任者になっている。

地区の中には摺木六世帯、松ヶ浦七世帯(平成二十二年)のように十世帯以下の小集落もある。

(二) 集落の高度分布

集落の高距的限界をみると、ほとんどの集落は海岸線に沿って標高十メートル以下の低地に家屋が分布している。落ノ浦には一部に標高四十メートルの傾斜地に家屋が分布している。



落ノ浦の集落

(三) 集落の立地

四浦地区の集落の位置をみると、ほぼ次の四点に分類されるのではないかと考えられる。

①沿岸の山麓斜面に集落が発達したものの。

②小河川による扇状地状の三角洲に集落があるもの。

③沿岸流により形成された砂浜、砂洲にあるもの。

④海の埋め立て地に集落が発達したもの。

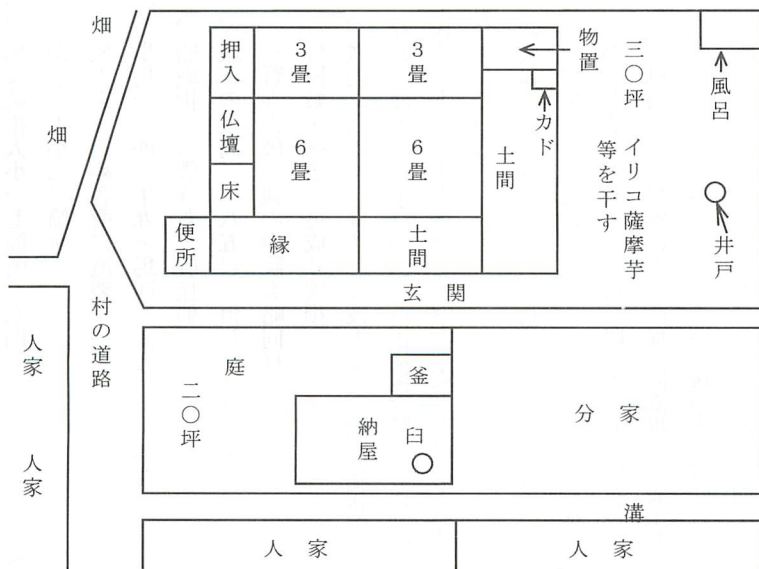
また、四浦地区でもっとも多いのは、沿岸部の砂浜、砂洲に立地したものである。

(四) 集落の形態

家屋が塊状に集まった集落で、集まった集落の多くは不規則な塊状をなしており、多くは家屋と家屋を結ぶ道路も不規則である。塊村かいそんの形態である。四浦の集落はほとんどが塊村である。

(五) 家屋構造

四浦地区の民家の家屋構造をみると、第一図のとおりである。関家の家屋構造図は昭和二十五年（一九五〇）頃の様子を示したものである。関家では分家が隣接して続いていることがわかる。母屋の間取りや敷地内の建物の配置をみると、①居住部分の間取りは田の字型が基本になっていいること。②庭には井戸や風呂があること。③母屋と分家が隣接していること、お互いに支え合っている姿をみる事ができる。



第一図 関家の家屋構造（昭和二十五年頃）

屋敷面積五十坪